

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4071601720		
法人名	株式会社コムスン		
事業所名	コムスほほえみ小森野		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市小森野5丁目15番18号 (電話)0942-36-5761		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多半道橋区2-2-51		
訪問調査日	平成19年9月14日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】平成19年8月28日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 5 人 非常勤 10人	常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,900 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (225,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	実費 円	昼食 実費 円
	夕食	実費 円	おやつ 実費 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月28日現在)

利用者人数	15 名	男性 6 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	5 名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢 平均	818 歳	最低 67 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人天神会古賀病院21 星野医院 首藤歯科矯正歯科医院 社会福祉法人景福会特別養護老人ホーム唐孔雀園
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前には、小学校のグラウンドが見渡せ住宅地として整備された環境に立地している。ホーム内も清潔で、庭には芝生や菜園・プランターで簡単な野菜を作れるように工夫している。法人の理念である「尊厳と自立を守る」ことを職員全員が入居者に対し接遇や言葉かけで実践している。入居者の残存機能や有する能力を發揮できる場面作りを提供し、地域の一員として安心して暮らせるように施設側から地域の方々へ働きかけを行い、交流や連携の基盤が出来ている。介護計画書を初めとする諸記録の充実・職員間の情報の共有を図るように努めている。又、個人情報漏洩防止策にも徹底して管理している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の地域への浸透・施設独自 地域生活に関する理念が明文化されていない。リビングの時計の位置・入居者の視線の位置に変更した。職員が持参の弁当を食べている・改善していない。研修計画・法人関係の研修は年間計画を立て参加している。職員のストレス緩和への取り組み・ユニットごとの食事を開催。警察や消防への働きかけ・出向き協力を呼びかけた。ボランティア介護セミナーの受け入れ・考慮しているが、実施に至っていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者やユニットリーダーが職員に情報収集を行なった。具体的に話し合う会議は行なわれていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的開催され、ホームの状況報告や地域包括支援センター職員からの入居者に関する質疑応答形式で実施されているが、評価についての報告や取り組み状況など質の向上を図る会議にまでは至っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会時に状況報告と共に意見や要望を伺うようになっているが、不満や苦情は聞かれていない。家族会からも運営に関する要望はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣への散歩の途中、地域の方へ挨拶を心がけている。自治会や町内会に加入し、広報や地域便り・回覧板で情報収集に努めている。入居者と共に地域への活動参加は行なっていないが、小学校の生徒が見学に訪れたり敬老会の出席に出向くなど交流を図っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	法人の理念を掲げ、施設独自の理念や地域生活の中で暮らすという地域密着型としての理念の構築がなされていない。		H18年度にグループホームの基本方針は、「家庭的な環境の下で」より「地域住民との交流の下で」に改められより「地域との関係性を重要視されるようになった。これまでの理念に加えより地域密着型サービスとしての役割を構築することが望まれる。早急に地域密着型の理念を明文化することを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「尊厳と自立を守る」という理念の下、入居者の残存機能を活かし自立性を高めるようにケアしている。職員は言葉使いやコミュニケーションを大切に、日々楽しく暮らせるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・町内会に加入し、地域の情報を広報や便りで収集している。近隣へ散歩の途中、地域の方々に挨拶をかけ小学校の生徒が施設に訪れる等交流を図っている。地域の敬老会に出席することやホーム便りで、情報を発信する予定にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について、管理者・ユニットリーダーが、職員に情報収集を行ったが、内容について職員全員で話し合う会議等は行っていない。		評価のねらいや活用方法を職員全員で理解し、質の確保や向上できるように期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・家族代表・地域包括支援センター職員等で、構成され定期的に実施している。ホームの状況報告や地域包括支援センター職員から、施設の状況や認知症における問題行動等の有無や対応の質問がある等の会議であった。評価についての取り組みや報告は行われていない。		

コムスのほほえみ小森野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市に出向き、担当職員にホームの現状を報告している。ホーム便りの持参や質の向上についての話し合いにまでは至っていない。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見制度等の社内研修を受けており、家族の要望時に説明を行なっている。職員は定期的な研修を受ける機会がなく、制度についての内容の理解が不十分である。		市や福祉から発行されているパンフレットを用いる等して、勉強会を行い、職員全員が制度への理解を深めていく。又、家族や地域の方々へ情報を発信できるように窓口、パンフレット等を準備することが望ましい。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へ入居者の暮らしぶりの報告は定期的に行なっていないが、外出・行事等の必要経費等を書面にて連絡している。家族面会時に、入居者の状況報告を行い面会が遠のいている家族には電話で状況を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会の開催はないが、ホーム側の召集により家族会で、状況報告している。特に意見や要望は出していない。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職する職員は、引継ぎ期間を1ヶ月としている。その間に入居者にも離職の説明を行い、新規職員と入居者とのコミュニケーションが取れ、馴染みの関係を築くように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は面接時の人権尊重指導を受けている。年齢や性別で採用することはない。又、高齢者や認知症のかかわり方に重視し質の向上や貢献できる職員を採用している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	接遇や言葉使いによる人権尊重を徹底し、職員間で注意しあうようにしている。現場で解決困難な場合は、法人へ報告を行い改善できるようにしている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、研修計画により職種別に研修会が開催され、職員は交代で参加している。社外研修の参加が少なく、職種によっては受講できない場合もある。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に入り、管理者は連携や交流を図っている。グループホーム協議会主催の研修会は行なわれていない。法人内のGH間と、研修会を予定しており職員全員が参加するように促している。		事業所の質の確保の為に同業者との交流や連携を職員が理解し、勉強会や相互評価などを通して具体的な取り組みを期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所は行なっていない。入居依頼があれば担当者により家族や本人へ施設の内容説明を十分に行ない利用できるようにしている。		

コムスのほほえみ小森野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者の職歴を把握しそれを生かした分野で能力を発揮できるようにしている。可能な役割を持つことで、共に暮らせるようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思の疎通が困難な入居者に対して、職員が行動や表情で意向を察知し個別的に支援している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に1回のケア会議において、職員全員で情報交換を行い介護計画書を作成している。開設当時はセンター方式に、入居者の暮らしの意向や意思確認が記載されていたが、現在は中断している。</p>		<p>認知症独自のアセスメントを使用し、職員全員が入居者の意向や思い・気づき等を情報の共有しながら、話し合い個別的な介護計画書の作成を期待したい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にあセスメント(ADL・IADL関係)・モニタリングは実施しているが、入居者の中に入院加療後、身体状況に変化が生じていないため介護計画書を継続している。</p>		<p>入院により一時的に介護計画が中断する事柄も踏まえ退院後より新たに入院期間・医師等の関係者の意見を記載した介護計画書を作成されるように期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能を活かした支援は行なっていないが、ショートステイ等問い合わせがあった場合は、法人が行なっているサービスを紹介している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診している方もあれば家族に同意を受け協力医に変更した方もいる。家族による通院介助や定期的に往診、職員が通院介助を行なう等して治療を継続している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では、本人や家族の意向確認を行っていない。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者・来訪者等に対して職員が尊厳を重視した声かけで対応している。個人ファイルは施錠付きのキャビネットに一括保管されている。ホーム便りには入居者の写真の掲載はプライバシー保護確保するため行わず、事務書類や入居者の氏名付きの薬袋等は、法人より集配して破棄処分できるシステムを導入し個人情報の漏洩を徹底している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	近隣への散歩や買い物等の外出支援は、意向を伺いながら本人のペースに合わせ対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が交代で調理を行ない、入居者の中には、配膳や後片付けの可能な役割を職員と共に行なっている。入居者同士の配置を考慮したり、間に入って見守りながら食事を楽しめるようにしている。職員は持ち込んだ弁当を食べている。		職員も入居者と同じ食事をする事で、共通した話題や味付けなどの気づきができることに着目し改善を期待したい。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体清潔が保てられるように、毎日入浴を行なっている。午前 午後と入居者の希望に添って支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや洗濯物の取り入れ・たたみ等の役割を持ち入居者と職員が共に行なっている。季節の行事のおやつ作りに参加していただいている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩やスーパーに出向き買い物をしている。時々、弁当を持参して公園へ花見、温泉に出かけるなどの支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や出入り口は施錠は行なっていない。徘徊や帰宅願望の行動を職員が気配で気づき、声かけを行い対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルや緊急連絡網の作成している。管理者を始め防災管理講習や職員全員が救急救命講習を受講している。非常時の誘導や意識付けもできており、消火・避難訓練は行なっているが、夜間想定や地域住民の参加による避難訓練は行なわれていない。		地域住民の参加や協力を働きかけ、夜間を想定した避難訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>法人より作成されたメニューは栄養摂取総量が計算されている。入居者の水分摂取目標量を毎日申し送り食事摂取・水分摂取量を記載し職員全員が把握している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
32	83	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同スペースから出入りできるウッドデッキには、簡単なテーブルが置かれており日常的には使用してはいるが共同スペースから庭が見渡せ、台所で食事の風景を見ることが出来るなど家庭的な雰囲気である。(【削除】季節感を味合うような工夫や草花の飾りはない。)</p>		
33	85	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には馴染みのコタツや箆笥・仏具が備えられ日頃から趣味や習慣を継続できるようにしている。</p>		